

チャイルドケアセンターの食育活動

大切なおコメだから、残さないで食べないと！」

～坂戸市の保育園でのバケツ稲作り

最近のコメ消費の動きを見ると、一人一ヶ月当たりの消費量は昭和37年以降、年々減少している。その原因はライフスタイルの変化、核家族化、高齢化、ニーズの多様化・高度化によりコメに依存しなくても生活出来る環境に変わってきた事等による。特に家庭で一家揃って食卓を囲んだ楽しい食事は減り、わが国特有の多彩な食文化も失われつつあるのが現状で、食べ残しや廃棄は目を覆うばかりである。そんな中、食育基本法が平成17年7月施行された。概要(食育の位置づけ等)の中に、食育とは【「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる】ことであるとされている。

昨年5月、J A えちご上越と上越市役所のご厚意で、埼玉県坂戸市にある保育園『チャイルドケアセンター坂戸』に「バケツ稲」を届けて頂いた。当初、キリン組とくま組の当番のお友達は、自分たちでおコメを育てるということに戸惑いを感じていたという。年末に、岸田園長先生から送られた「いねのかんさつ」(観察レポート・写真ご参照)には、初めての発見をする度に、「せんせい!」「すご〜いことがおきたあ!」と、キラキラ目を輝かせて報告する様子、子供たちが一生懸命雑草を抜いたり、稲の高さを測ったりして「バケツ稲」を育てたことが良く分かる。子供たちが、成長していく稲の様子を日々観察し、感動・発見・不思議さを色々学んだ事が写真から窺える。

コメ作りについて知識が無く戸惑っていた保育士さん達も、稲の成長と共に毎日の作業が、段々育てる楽しみに変わった。防虫網でスズメ対策に工夫を凝らし、全員が協力して収穫・脱穀・精米という経験をし
(次ページへ続く)



チャイルドケアセンター 1組P
きりんぐみ・くまぐみの お友達です。
(当組) (別組)



ある程度 分けつが 終了したら バケツの
水を抜いて土を かゆかします(これを
「中ぼし」と言います)
これは 中ぼしのために 水を抜いて
いるところです。



7月5日 稲の大きさ 71 cm
だいふ 大きくなってきました。



7月20日 稲の大きさ 74 cm
中ぼしを終えて ふたたび バケツに
水を入れました。

(前ページより続く)

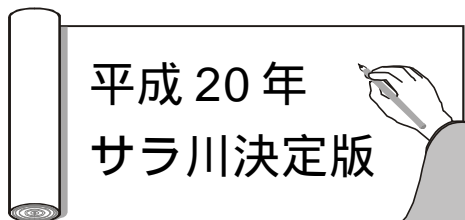
た事で、自分達が収穫したコメを園児達は一粒残さず食べたのである。「たいせつなおコメだから、のこさないでたべないと」と、子供たち自身が食べ物の大切さ、大変さを自覚できるようになったのが一番の収穫。

最後に、自分達が育てたおコメを食べている子供達の笑顔と、「バケツ稲」を通して【食物(稲)の成長】【農家の方の苦勞】【お米の大切さ】を知ることができ本当によかったです・・・とあった。職員もおコメの大切さを再認識し、職員会議で「食育」について話し合うきっかけにもなったそうである。これぞ「食育」の実践!

世界的にみるとコメは人口の伸びに生産が追いつかない。しかし、日本はコメの消費が年々減る一方である。30代以下の若い世代は60代の半分しかコメを食べない。幼い頃からコメ作りを知り、コメに親しみ、バランスの良い食生活を親子で見直す必要がある。コメは、世界人口の半数以上に及ぶ人々が主食としていて、特にアジアでは飢餓や栄養不足を防ぐ基礎食糧である。世界中には、まだまだ食糧不足に悩む地域が多いのが現実で、今回この子供たちの貴重な経験が将来役に立てば有難いと思う出来事であった。(農産部 岡野)



11月5日
精米(白米にする)
もみがらを取ったお米を棒で
つきます。



新春恒例サラリーマン川柳。今回も第一生命の「私が選ぶサラリーマン川柳ベスト100」より当紙が選んだ傑作首をお送りする。(川柳に使用されている文字・雅号は全てそのまま掲載しております) 第一生命「サラリーマン川柳」より抜粋

身に覚えはありませんか?

脳年齢 年金すでに もらえます (満33歳)

アレどこだ? アレをコレする あのアレだ! (読み人知らず)

忘れぬよう メモした紙を また探す (敢山)

「いつ買った?」 前からあったと シラを切る (耐える夫)

お父さんの肩身は結構狭いものです。

このオレに あたたかいは 便座だけ (宝夢卵)

「ご飯ある?」「ツクレパアルケド」「ならいいです...」 (腹減った)

帰りたい 我が家ではなく あの頃に (ノスタル夫)

定年後 メシ・フロ・お茶は 妻の声 (静子)

ちょっとした気遣いが大切です

残業代 欲しくはないです 帰らして (お疲れ社員)

「無理するな」 本心だったら 休暇くれ (気弱な亭主)

ナビだけが「お疲れ様」と 慰勞する (家族旅行愛好者)

「ありがとう」 そのひとことが 潤滑油 (ココイコ)

燃費のいい身体で地球に優しく。

イナバウワー 一発芸で 腰痛め (小太りおじさん)

たまったなあ お金じゃなくて 体脂肪 (サラ川小町)

岩盤浴(ガンバンヨク) 韓流スターかと 聞く親父 (世間知らず)

デスノート「脂肪」「脂肪」と 書く女房 (体エル)

1/21は大寒の暦らしく、東京地方は大雪の予報でしたが結局は外れ、雨すら降らずじまいでした。都心部は雪に弱く交通がマヒしてしましますが、雪の中を恐る恐る通勤するのもたまには楽しいものです。

編集局長：小田原次洋 アシスタント：助川尚子